

ずっと昔の決心はどこかで歪んで  
三年前の現実を隠して 失くして

桃源郷の向こうは骨で溢れて

それでも伸ばしてみても

手を

当然やって来た報いは誰かが背負うのだろう

呟いたんだ 名前を

慣れていた 淀みが無いと悟った

単純明快 今日冒険と帰り道を

気付かれないようにそっと覆い隠していた

閉じた窓

浮かんだ模様

瓦礫を這い出して痛みを思い出した

彼方を望めば葛藤が影を踏む

駆けるんだ もっと 全身を捧げろ

拒めないや 散々だ

捨てよう 得よう まだ足りないから

咲かせるんだ もっと

現実が最低だって終われないさ 掲げろ

手を

目覚めたらぎゅっと震えを堪えるんだよ

叱られたって何回も

「もう平気」

見え透いた嘘で

平身低頭 明日も日常を謳歌しよう

来年の今日ここで誰が待つのでしょうか

焼けた町

転んだ迷子

箱庭追い出して孤独を奪い去った

夜明け前 戻らない残像は何を見る

猛るんだ もっと 信念を鳴らせよ

壊れないさ 簡単だ

焼べよう 背を預け合えるなら

求めるんだ もっと

諦念が舞い込んだって染まらないさ 握るんだ

手を

雨で夜空を見失った 色褪せるまで二人誓った

別れを厭い供物に成った 罪と罰は曖昧に果てた

選ばれぬ者 並び立って揺れる友の迷いを払った

迎えに来たよ 繋ぎ止めよう

いつも いつでも

駆けるんだ もっと 全霊を捧げよう

怖くないさ 限界も越えよう

目を開いてヒーロー！

咲かせるんだ もっと

幻想が息絶えたって止まらないさ 重ねろ

手を

紡がれた歴史を

爆ぜるんだ もっとエンジンを回せよ

燃やして 最後まで火を

魂を貫く勇者よ

猛るんだ もっと 信念を掻き鳴らせ

届くまで伸ばすんだ

手を

手を！

朽ちた部屋

止まり木を離れ飛び立つ日

見上げれば青空

果ての果て

共に行く君の手を